

長野県本部 2021 聖湖周辺と差切峡の紅葉撮影会

審査 総本部事務局長 勝又ひろし

総評

同じ場所で同じ時間帯で写真を撮れば、似たような絵作りになってしまうのはある程度やむを得ないと思います。それでももっと工夫がほしかったというのが全体の印象です。これだっ！と感じる作品がなく、セレクトには苦労しました。選んだのは風景、スナップというより、造形、パターンの面白さが特徴の写真になりました。みなさんはもっと上手なはずですので、頑張ってください。

<最優秀賞> 「釣り人」金子 亨（塩尻市）

早朝のもやと湖面の光、人物のシルエットが効果的に配置されて、モノトーンの静かで落ち着いた作品になっています。手前の水面の静かさと、背景の水面のにぎやかさの対比が面白いですね。

<朝日新聞社賞> 「湖畔の秋景」早川千芳（松本市）

大きな風景を大きく切り取るのではなく、細部にこだわり小さく描写することも重要です。湖畔に置かれたブーケのような作品になりました。

<全日本写真連盟賞> 「水面揺らゆらと」中山 力（佐久市）

手こぎボートが浮かぶ湖面に、停泊位置の関係でアヒルボートの頭が映っているという、ちょっとしたトリック写真です。よくそこに気がついたと思います。

<優秀賞> 「孤独」工藤義一（佐久市）

幾何学的な造形の木道が小さなさざ波の湖面に浮いているという、パターンの面白さですね。釣り人がたった一人だから成立した写真でした。

<優秀賞> 「湖水の静けさ」宮島政子（高森町）

鏡面のようにになっている湖水を素直に上下シンメトリックに撮った写真です。山に色がないので物足りない感がありますが、その分すっきりした作品になっています。

<優秀賞> 「忍び寄る秋風」平林光行（安曇野市）

なにかの施設で現在は廃屋になっているのだと思います。真っ青な空と紅葉との対比が面白いのですが、ピーカンすぎて風情に欠けます。暗く補正するかモノクロで撮ってもよかったですでしょう。